

## 生活文化産業学

(第 1・3 木曜日 午後 14 時～／成徳学舎)

### 第 2 回 生活文化産業における情報通信技術の変遷と現状について

担当：大倉 朗寛

～講義の流れ～

1. はじめに (14:00～/30分)
2. 情報通信技術の変遷について (14:30～/30分)
3. 情報通信技術の現状について (15:00～/30分)
4. 【情報共有】地産地消、まちづくり (15:30～/10分)
5. ディスカッション、まとめ (15:40～/20分)

～内容～

1. はじめに (14:00～/30分)

- ・生活文化産業学について

商品もしくはサービスとして創出または生産されて、市場に出回れば既存産業の範疇となると考えています。仮に、「生活文化産業」を従来にない全く新しい産業と捉えるならば、各地域に固有の地域資源を生かして商品もしくはサービスを創出または生産するまでのプロセスを、資源からモノやコトへ変換する経済活動として捉えることができるのではないのでしょうか。

- ・生活文化の産業化において重要なこと

顧客創造（顧客と価値を共有し、顧客が求めている商品やサービスを創出する共同学習の場づくり）→仕事創造（顧客が求めている商品やサービスの生産および販売による雇用を多用な形態で創出する）→産業創造（雇用の拡大・維持と永続化）→余暇創造（新たな生活文化の創出と継承）と考えています。

- ・生活文化を構成する 3 要素

1. 場（地域、空間）
2. 間（時間、時代、道程）
3. 知（情報、知識、知恵）

情報通信技術（ICT）によって効率よく「知」を収集して活用することによって、「場」と「間」を有効利用できると考えています。

- ・ 地域リーダーの役割とは

これまで企業内の作業効率化および生産性向上については様々な手法を用いて行われてきましたが、地域内（企業や地域住民との関係など）の作業効率化および生産性向上については充分に行われてこなかったと考えています。

各企業は、それぞれ企業内での作業効率化および生産性向上によって少しでも他社より、よい「モノ」をより安く消費者に提供することが正しいと考えるようになったものと思われませんが、その作業効率化が、それぞれの日常生活や精神的余裕を無くさせる限界に近づきつつあるといえるのではないのでしょうか。

従いまして、地域リーダーは、地域内の各企業や地域住民とコミュニケーションを促進することによって地域内の作業効率化を図り、過当かつ無益な競争を極力減らし、地域内の生産性（アウトプット）を向上させることが求められると考えています。

## 2. 情報通信技術の変遷について（14：30～／30分）

Yahoo!検索から「情報通信技術の変遷」について検索してみると、以下のようなウェブサイトアクセスして参照することができます。

- ・ [「情報通信技術の変遷」の検索結果 - Yahoo!検索](#)



- ・ [第6回 通信技術の発達と通信産業の変遷](#)
- ・ [情報技術史 - Wikipedia](#)
- ・ [通信技術年表 - Wikipedia](#)

3. 情報通信技術の現状について (15 : 00 ~ / 30分)

Yahoo!検索から「情報通信技術の現状」について検索してみると、たとえば、JICA (国際協力機構) のウェブサイトアクセスして参照することができます。

・ [「”情報通信技術の現状”」の検索結果 - Yahoo!検索](#)

↓

・ [JICA Knowledge Site - 分野課題 - 情報通信技術 - 課題別指針](#)

また、以下の4つのキーワードについて国内では意外と正しく理解されていないようですので、これらを正しく利用することでICTの本質が見えてくると考えています。

・ [インターネット - Wikipedia](#)

・ [World Wide Web - Wikipedia](#)

・ [ホームページ - Wikipedia](#)

・ [ICTとは「情報通信技術」アイシーティー： - IT用語辞典バイナリ](#)

4. 【情報共有】地産地消、まちづくり (15 : 30 ~ / 10分)

・ [生活文化産業学 | 市民大学院 \(文化政策・まちづくり大学校\)](#)

5. ディスカッション、まとめ (15 : 40 ~ / 20分)